



主な内容

- | | |
|--------|--|
| 巻頭言 | 学長就任挨拶
油井亀美也宇宙飛行士 ミッション報告会 |
| 特集 | 岩手看護短期大学の紹介 |
| トピックス | 平成27年度 最終講義が行われました |
| フリーページ | すこやかスポット医学講座No65
「感音難聴患者に対する両側人工内耳装用」 |

表紙写真：満開を迎えた盛岡城跡公園の桜（2016.4.20撮影）

学長就任挨拶

岩手医科大学 第十一代学長

祖父江 憲治



このたび、岩手医科大学長を拝命することとなりました。本学の120年に及ぶ栄誉ある伝統を発展させ「誠の人間であれ」の精神の下、微力ではありますが全身全霊をもって努力してまいっている所存です。

創立120周年記念事業の当面の最終章として平成31年には矢巾新病院の開業、その後に内丸メディカルセンターの開設を予定しており、本学120年の歴史の中でも激動の変遷期に当たっております。今こそ激動の変遷期の生みの苦しみを突破して、岩手医科大学の発展と飛躍の基盤を造るべき時期であります。

医師偏在化の拡大、新設医科大学、医療費マイナス改定をはじめ激変する医療関連施策など、医療を取り巻く状況は年々悪化傾向にあります。また教育においても今後少子化に伴う受験者数や入学定員の減少など喫緊の課題が山積しています。このように医療・教育を取り巻く厳しい状況の中で大学運営を行っていかねばなりません。

これまで本学は開学以来岩手県唯一の医科大学さらには医療系総合大学として、岩手県のみならず北東北の医療を担ってまいりました。これまで実績を積み上げて来た本学の特色を活かし、時々々の国の施策など外的要因に揺り動かされない私学ゆえに成し得る本学独自の50年、100年さらにはその先を見据た磐石な基盤造りが重要と考えています。

本学における変遷期とは、大学の器造り、この中で活躍する人造り、そしてこれを支える組織造りであります。矢巾新病院と内丸メディカルセンターの開設が器造りであり、時代の変化

に即応した大学運営の合理化と経営改革さらにこれを支える組織改編(組織造り)を迅速に行い、この器(矢巾新病院と内丸メディカルセンター)の中で活躍する医療人育成の大幅な増加(人造り)が必要であります。

医療系総合大学としての本学の使命は、教育・診療・研究であることは言を待ちません。医・歯・薬三学部に加えて来年度から新設予定の看護学部を含め各学部の特色を生かしつつ、本学の特色である四学部同一キャンパスで学生時代からチーム医療を涵養出来る教育環境を育むと同時に、診療・研究の充実をはかり、岩手県さらに北東北の医療を担う責務があります。本学創設以来の根幹である地域医療に根ざした医療を発展させ、地域から日本、世界に飛躍する大学を目指してまいりたいと考えております。

教職員の皆様には、この意味を十分にご理解いただき絶大なるご協力をお願い申し上げご挨拶とさせていただきます。

略歴・プロフィール

- 昭和 22年 8月生 愛知県名古屋市出身
- 昭和 48年 3月 岩手医科大学医学部卒業
- 昭和 52年 3月 大阪大学大学院医学研究科修了
医学博士(大阪大学)
- 同年 5月 大阪大学医学部神経薬理生化学教室 助手
- 昭和 56年 8月 同教室 助教授
- 昭和 63年 2月 同教室 教授
- 平成 23年 3月 大阪大学 退職
- 同年 4月 岩手医科大学 副学長
大阪大学 名誉教授
- 平成 28年 4月 岩手医科大学長・岩手看護短期大学長

油井 亀美也 宇宙飛行士ミッション報告会～亀の恩返し～ 矢巾キャンパスで開催

3月13日(日)、矢巾キャンパスにおいて、油井亀美也宇宙飛行士 ミッション報告会～亀の恩返し～が行われ、約730名が来場されました。

油井宇宙飛行士は、第44次/第45次国際宇宙ステーション(ISS)長期滞在において、宇宙用補給船「こうのとり」のドッキングや日本の実験棟「きぼう」において宇宙実験に携わり、日本の有人宇宙活動に大きな成果を残されました。今回の報告会は、油井宇宙飛行士とふれ合うことを目的に公募されたもので、本学が全国で4カ所選ばれた開催地の1つに選ばれたことによるものです。

第一部のミッション報告会では、油井宇宙飛行士から宇宙での活動について報告があった他、質問コーナーが設けられ、来場者からの様々な質問にお答えいただきました。

第二部の『学ぼう!宇宙に浮かぶ実験室「きぼう」の実験』では、油井宇宙飛行士とJAXA(宇宙航空研究開発機構)有人宇宙技術部門 きぼう利用センターの山田 貢 主任開発員、本学構造生物薬学講座 阪本 泰光 助教が対談し、「きぼう」で行われているタンパ

ク質の結晶生成実験について説明があり、宇宙実験の意義や実験成果への期待が伝えられました。

第三部の「ココでしか聞けない!宇宙のお仕事トークショー」では、油井宇宙飛行士と世界最大級の宇宙用補給船「こうのとり」の荷物輸送に携わったJAXA有人宇宙技術部門 有人宇宙技術センターの麻生 大技術領域リーダとのトークショーが行われ、「こうのとり」ミッションに関するエピソードや当時の緊迫したやりとりが語られました。

また、当日の報告会に先立って行われた午前の部では、ミニ実験「タンパク質の結晶を作ろう」が行われました。本学とJAXAは、歯周病菌や多剤耐性菌の増殖や育成に重要なタンパク質を「きぼう」日本実験棟で結晶化し、立体構造の解明とその応用を目指した研究を進めています。タンパク質の結晶を実際に作る実験を、小中高生約50名が行いました。

参加者からは「とても勉強になった」「油井宇宙飛行士の生の声を聞くことができ感激した」「将来は宇宙飛行士になってみたいと思った」といった感想が寄せられました。



展示コーナー



ミニ実験
タンパク質の結晶を作ろう



質問コーナー



【二部】学ぼう!宇宙に浮かぶ実験室「きぼう」の実験
(左から: 阪本助教、山田主任開発員、油井宇宙飛行士)



【三部】ココでしか聞けない宇宙のお仕事トークショー
(左から: 麻生技術領域リーダ、油井宇宙飛行士、井上朋子アナウンサー)



記念パネルの贈呈
(油井宇宙飛行士がミッション中に宇宙から撮影した「こうのとり」、一緒に滞在した仲間のクルーの写りがデザインされたパネルです)

岩手看護短期大学の紹介

平成 28 年 4 月より岩手看護短期大学は、学校法人岩手医科大学のもとで新たにスタートする運びとなりました。そこで、本号では岩手看護短期大学についてご紹介します。

これまで岩手看護短期大学を運営された学校法人岩手女子奨学会は、学校法人岩手医科大学の学祖である三田俊次郎先生によって創立され、両法人は今日まで密接な協力関係を保ちながら長い歴史を重ねてきたことから、このたびの経営母体の移管が実現しました。

そして、この移管により今後さらなる教育環境の発展が期待されるとともに、岩手看護短期大学を母体とした 4 年制看護学部の新設に向け、新たな一步を踏み出すこととなりました。

■ 概 要

所在地 岩手県滝沢市大釜千が窪 14-1
学 長 祖父江 憲治 (岩手医科大学長と併任)

■ 設置学科

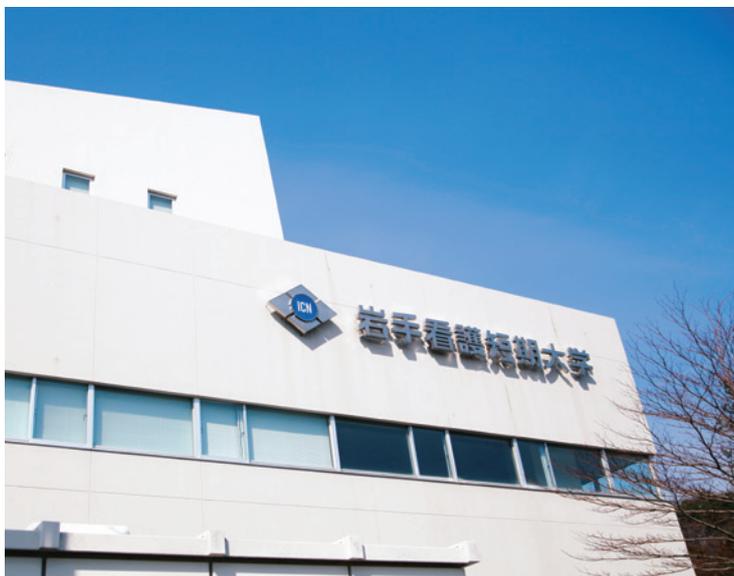
- ・看護学科 (定員 60 名)
- ・専攻科 地域看護学専攻 (定員 20 名)
- ・専攻科 助産学専攻 (定員 15 名)

※看護学科は、岩手医科大学へ看護学部新設予定により、平成 28 年度入学生をもって学生募集を停止する旨、文部科学省に届け出を行っております。

■ 建学の精神

“人間愛と奉仕の心”

この精神は、岩手医科大学の学則にもある「誠の人間」の育成を目標にした創立者・初代理事長である三田俊次郎先生の精神を反映したものとなっており、学校法人岩手女子奨学会三代目理事長三田明子氏 (現 名誉理事長) が提唱したものです。



■ 岩手看護短期大学のあゆみ

1990(平成2)年	岩手女子看護短期大学 開学 東北初の看護短期大学として、滝沢村大釜(現滝沢市)に設立 入学定員 60 名
1998(平成10)年	専攻科 開設 地域看護学専攻 (定員 20 名) 助産学専攻 (定員 15 名)
2000(平成12)年	岩手看護短期大学に学名変更 男女共学となる
2016(平成28)年	学校法人岩手女子奨学会より、学校法人岩手医科大学へ設置者変更

■教育理念

1. 豊かな教養と誠と信とに徹する人格の陶冶
2. 高度の専門知識と技術の修得
3. 人類愛に基づいて社会の福祉・保健医療に寄与し得る人材の育成

■教育に関するポリシー

岩手看護短期大学では、社会で活躍できる有為な人材を送り出すために、教育に関するポリシーを定め、入学から卒業・修了するまでの教育を実施しています。

●カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

誠の精神と人間愛の心は医療職者たるものの原点であり、豊かな教養と円満な人格を具備した人材を涵養します。医学、医療の進歩に対応できるよう高度かつ広範な知識と技術を習得できる教育課程を整備するとともに、優れた指導能力を備え、日々変化するグローバルな社会や地域で、保健、医療、福祉を実践し、奉仕できる力を涵養します。そのためのカリキュラムの編成の要件を各学科毎に作成しています。

●ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

建学の精神「人間愛と奉仕の心」を深く理解したうえで、医療職者として必要な知識・技術・態度を習得し、医療機関や地域社会で活躍できる能力などを身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して学位を授与します。そのための要件を各学科毎に作成しております。



岩手看護短期大学法人移管開学式が行われました

4月2日（土）、岩手看護短期大学レクチャーホールにおいて、法人移管に伴う開学式が行われ、在学生138名、教職員30名、本法人関係者21名が出席し、岩手看護短期大学の新たな門出を祝しました。

式では、祖父江憲治学長から「看護職不足という状況下にあって、地域医療に対する皆さんへの期待と使命は益々重大となっています。有意義な学生生活を送られ、立派な医療人に成長されることを祈念します」との式辞が述べられ、小川彰理事長からは「長い歴史と伝統を有する学校法人岩手医科大学が経営母体となる岩手看護短期大学の学生・教職員として、自覚と誇りを胸に秘め、高い志を持って勉学と業務に励むことを望みます」との挨拶がありました。

その後、岩手看護短期大学の継承として、学校法人岩手女子奨学会の澤野理事長から小川理事長へ、学旗が手渡されました。



祖父江学長による式辞



岩手看護短期大学旗の継承
左：小川理事長、右：澤野理事長

平成27年度 最終講義が行われました

3月31日付をもって定年退職された医学部所属教授の最終講義が、3月2日（水）歯学部4階講堂で、薬学部所属教授の最終講義が3月3日（木）矢巾キャンパス大堀記念講堂で行われました。講義には本学教職員をはじめ在学生や卒業生など多数の関係者が聴講しており、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に聴講者は名残惜しそうに耳を傾けました。講義終了後には、各教授に職員や学生等から花束が贈呈され、惜しみない拍手が送られました。



医師生活三十数年を振り返って
形成外科学講座 小林 誠一郎



古代人の不安
-ギリシアローマ時代における不安の概念-
神経精神科学講座 酒井 明夫



メラノサイトとメラノーマ
皮膚科学講座 赤坂 俊英



口腔細菌のバイオフィルム
薬理学講座病態制御学分野 加藤 裕久



私の目指してきた口腔外科の臨床と研究
口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 水城 春美



薬学部開設準備から11年の歩み
細胞病態生物学講座 北川 隆之



微生物からの贈りものに魅せられて
微生物薬品創薬学講座 上原 至雅

いわてこどもケアセンター特別研修会が行われました

3月13日（日）、ホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGにおいて、「東日本大震災から5年～こどもたちの健やかな成長のために～」と題して、いわてこどもケアセンター特別研修会が開催され、県内外から保健・医療・福祉・教育分野の関係者ら約150名が参加しました。

午前はパネルディスカッションやミニレクチャーを通じて被災した子どもやその支援の現状について理解を深め、午後の「傷ついた子どもへの認知行動療法的アプローチ」をテーマとした特別研修においては、認知行動療法の基礎となるコミュニケーションを学んだほか、トラウマを抱えた子どもへの認知行動療法についての実践報告が

行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。



平成27年度卒業式が行われました

平成27年度岩手医科大学の卒業式は、3月10日（木）岩手県民会館大ホールにおいて厳かに挙行され、本法人役員や教職員、多数のご父母が出席されました。今年度の卒業生は、大学院医学研究科博士課程11名、医学研究科修士課程2名、歯学研究科博士課程4名、医学部113名、歯学部48名、薬学部132名でした。

また、岩手医科大学医療専門学校の卒業式は、3月11日（金）歯学部4階講堂で行われ、歯科技工学科10名、歯科衛生学科40名の卒業生を送りだしました。



岩手医科大学



岩手医科大学医療専門学校

臨床研修修了証授与式が行われました

本学附属病院等での臨床研修を終えた臨床研修医の修了証授与式は、3月25日（金）木の花会館3階会議室で行われ、酒井病院長から臨床研修医6名に修了証が授与されました。修了証の授与後には優秀臨床研修医の表彰も行われ、賞状と副賞が手渡されました。臨床研修歯科医の修了証授与式は3月31日（木）創立60周年記念館8階研修室で行われ、臨床研修歯科医29名に野田歯科医療センター長から修了証が授与され、来賓から祝辞が寄せられました。



臨床研修医修了式



臨床研修歯科医修了式

眼科医育成奨学金制度を創設しました

このたび、本学大学院医学研究科博士課程では、医学の最前線において活躍できる有能な眼科医の育成を目的とした、返還を要さない給付型の奨学金制度を創設しました。

これは、眼科学講座に所属する大学院生に対する奨学金制度で、盛岡市在住の佐藤孝子様による寄付金を原資としております。

3月23日（水）には、創立60周年記念館10階理事室において、小川理事長より佐藤様に感謝状と記念品を贈呈しました。



理事会報告(2月定例－2月29日開催)

1. 名誉教授の称号授与について

城 茂治（口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野教授）
 酒井 明夫（神経精神科学講座教授）
 赤坂 俊英（皮膚科学講座教授）
 小林誠一郎（形成外科学講座教授）
 加藤 裕久（薬理学講座病態制御学分野教授）
 木村 重信（微生物学講座分子微生物学分野教授）
 北川 隆之（細胞病態生物学講座教授）
 上原 至雅（微生物薬品創薬学講座教授）
 前田 正知（分子生物薬学講座教授）
 （称号授与年月日 平成28年4月1日付）

2. 役職者の選任について

学生部長 増田 友之（新任）
 学生副部長 佐塚 泰之（再任）
 図書館長 寺山 靖夫（新任）
 図書館分館長 藤井 勲（新任）
 キャリア支援センター長 大橋 綾子（新任）
 大学附属病院副院長 土井田 稔（新任）
 大学附属病院副院長 黒坂 大次郎（新任）
 大学附属病院副院長 鈴木 健二（新任）
 総合情報センター長 小山 耕太郎（再任）
 総合情報センター副センター長 田中 良一（再任）
 リエゾンセンター長 佐々木 真理（再任）
 （任期 平成28年4月1日から平成31年3月31日まで）

3. 理事の選任について

理事 佐藤 洋一（新任）
 理事 名取 泰博（新任）
 理事 杉山 徹（新任）
 （任期 平成28年4月1日から平成30年2月22日まで）

4. 教員の人事について

頭頸部外科学科 教授
 志賀 清人（前 医学部耳鼻咽喉科学講座 教授）
 口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野 教授
 山田 浩之（前 同分野 准教授）
 口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野 教授
 佐藤 健一（前 同分野 特任准教授）
 （発令年月日 平成28年4月1日付）

5. 職員の人事について

副薬剤部長 佐藤 文彦（前 薬剤長）
 薬剤長 佐藤 浩二（前 主任薬剤師）
 財務部長 小野寺 正二（前 学務部研究助成課長）
 病院事務部次長及び救急センター事務室長事務取扱
 藤沢 功（前 救急センター事務室長）
 情報センター事務室長 齊藤 匡俊
 （前 情報センター事務室 係長）
 財務部用度課長 遠藤 利明（前 用度課長補佐）
 医学部教務課長 有馬 幹（前 全学教育推進機構事務室長補佐）
 学事総務課長 伊藤 努（前 矢巾キャンパス教務課長補佐）
 医事課長 本館 孝信（前 医事課長補佐）
 循環器医療センター事務室長
 兼PET・リニアックセンター事務室長
 村山 裕孝（前 医事課長補佐）
 （発令年月日 平成28年4月1日付）

6. 岩手医科大学海外留学（研修）助成に関する規程の一部改正及び海外研修補助費支給に関する規程の廃止について

7. 学校法人岩手医科大学事務専決規程の制定について

本法人の運営に係る事務処理の効率化と責任の明確化を図るため、職位ごとの決裁権限を明文化したいこと、学内理事の決裁権限を規定化し、運用を行う中で見直しを図り、順次拡大することとして学校法人岩手医科大学事務専決規程を制定することについて承認
 （施行年月日 平成28年4月1日付）

8. 組織規程の一部改正について

岩手看護短期大学設置に伴い、組織規程に同短期大学を追加したいこと、また、同短期大学に所管事務室をおくこと及び災害医療教育と学部教育との連携強化のため、災害時地域医療支援教育センター事務室を学務部に配置することについて承認
 （施行年月日 平成28年4月1日付）

9. 附属病院移転事業に係る建築・設計監理業務委託の契約変更について

企画募集

創立120周年記念イベント「健康フェス2016」

昨年、約1,600名の皆様にご来場いただき、大盛会のうちに幕を閉じた創立120周年記念イベント「健康フェス」を今年も開催します。2回目を迎える今回は、昨年来場者からいただいた声を形にし、ご期待に応えるとともに、新規企画を取り入れ、昨年以上に盛り上がりのある充実したイベントを目指していきます。

そこで、教職員、学生の皆様からも、「健康」をテーマとした、企画・アイデアを募集いたします。岩手医大と地域をつなぐイベントへたくさんのご応募をお待ちしております。

■ 募集期間

平成28年3月22日(火)～5月31日(火)

■ 選考方法

創立120周年記念事業小委員会にて企画内容や趣旨を検討します

■ お問い合わせ

下記にメールでお寄せ下さい(書式等は問いません)

E-mail : anniv@j.iwate-med.ac.jp

創立120周年記念事業事務局(内線7022)

岩手医科大学 健康フェス2016 実施概要(予定)

- 開催日程 平成28年9月10日(土) 9:30～16:30
- 会場 矢巾キャンパス
- テーマ いきいき・元気・健康家族

昨年実施内容(参考)

- 特別講演、基調講演
- 公開講座
- 各種ヘルスチェック
- 健康相談、おくすり相談、妊産婦相談
- 肩こり・腰痛体操、ヨガ体験、ブラッシング指導
- 体力測定、歯科材料体験(色塗り)
- ヘルシーメニュー試食、救命救急・AED講習
- ドクターヘリ基地見学、薬用植物園見学
- 学生企画(松ぼっくりアイス販売、さんざ踊り、パフォーマンス、健康〇クイズ)
- 施設開放(図書館、ラーニングコモンズ)
- 地元産直販売コーナー
- 地元プロサッカーチームとの交流
- 学食オリジナルヘルシーメニュー提供
- スタンプラリー、もちまき大会



公開講座



ヘルスチェック



CCDカメラで口内観察

120th
NEWS

創立120周年記念ステッカー を製作しました

平成29年4月20日に迎える本学創立120周年まで、残すところあと1年足らずとなりました。

そこで、記念事業のより一層の周知と機運醸成を目的として、本学学生及び教職員向けにステッカーを製作いたしましたので、本号とともに配布いたします。

是非お手元のノートパソコンや手帳、ファイルなどにたくさん貼って、2017年に迎える創立120周年を積極的にPRしましょう!



定年を迎えられた教職員の皆様、永い間お疲れ様でした

本年3月31日付で定年を迎え退職された皆様には、永い間岩手医科大学発展のためにご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。



- 6 列目 青村 知幸 八木 正篤 齋藤 設雄 熊谷 啓二 千葉 久人
- 5 列目 小山 薫 中村 整子 小野 圭子 後藤 千鶴子 田村 久美子 阿部 悦子 澤 良悦 谷藤 えみ子
- 4 列目 中里 龍彦 羽澤 みや子 阿部 正子 熊谷 礼子 滝村 芳子 玉山 久美子 袖林 啓子 藤井 喜栄子 黒田 牧子
- 3 列目 野里 三津子 田中 幸子 澤瀬 あや子 川口 さち子 阿部 京子 吉田 美保子 才川 真由美 小原 志津子
- 2 列目 上原 至雅 北川 隆之 客本 齊子 昆 理子 小西 育子 佐藤 千鶴子 関山 静子 水城 春美 加藤 裕久
- 1 列目 赤坂 俊英 小林 誠一郎 佐藤全学教育推進機構長 祖父江副学長 三浦副学長 三浦看護部長 酒井 明夫 城 茂治

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

平成26年6月から始まりました岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第9回目の御芳名紹介です。(平成28年1月1日～平成28年2月29日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体 (2件)

- <10,000,000> 医療法人 創美会 共立美容外科宇都宮院 (栃木県宇都宮市)
- <御芳名のみ掲載> わかオーラルヘルスケアクリニック (秋田県能代市)

●個人 (6件)

- <1,000,000>
- 赤坂 俊英 (名誉教授)
- <100,000>
- 歳弘 真貴子 (医42)
- <御芳名のみ掲載>
- 鈴木 一幸 (名誉教授)
- 後藤 康文 (役員)
- 川村 大介 (医42)
- 澤田 啓子 (父母)

(受付順 敬称略)

(受付順 敬称略)

区分	申込件数	寄付金額 (円)
圭陵会	289	257,030,000
在学生ご父母	203	153,615,000
役員・名誉教授	31	37,460,000
教職員	71	13,547,000
一般	26	21,080,000
法人・団体	82	336,425,000
合計	702	819,157,000

(平成28年2月29日現在)

シリーズ 職場めぐり

整形外科学講座

整形外科学は、上肢、下肢と脊椎のすべての運動器の外傷と疾病を扱い、小児から高齢者までを対象とする非常に守備範囲の広い診療科です。診療も保存的治療から外科的治療、リハビリテーションまでを担当し、わずか教官14名と大学院生3名で診療と教育にあたっております。高齢者社会を迎え患者数は増加の一途をたどっており、社会における整形外科のニーズは益々高まっていることもあり、手術件数は1000件近くにおよびます。

その中でも当科では、高度の脊柱変形に対する矯正固定術、トッパスリートの外傷に対する関節鏡視下手術、小侵襲人工股関節置換術、関節鏡視下手根管解放術など国内でも最新の医療を提供しております。

運動器の診療を行う上でチーム医療は不可欠であり、

他科との強い連携を構築しながら最良の医療を提供できるよう努力していきたいと思っております。

(教授 土井田 稔)



看護部 (循環器7階)

循環器7階は、病床数47床の循環器内科病棟で、看護師33名と看護補助者3名で運営しています。そのうち4名は、循環器内科・心臓血管外科・循環器小児科の3科から成る循環器外来を担当しています。患者さんの6割以上が高齢者であり、虚血性疾患・大動脈疾患・弁膜症・不整脈疾患など、生活習慣を要因としている疾患が多く、入院・外来ともその患者さんに合った生活の確立を目指し援助しています。『専門的知識に基づき安心・安全で思いやりのある看護を提供する』を部署理念とし、思いやりと倫理観をもって患者さんやご家族と接し、医師やコメディカルの方々と協働して、平均在院日数9.2日の短期間の関わりであっても、患者さんに満足して頂けるように看護しています。その時々々の注意事項や目標を標語にして提示し、毎朝全員で指さし呼

称して士気を高め日々励んでいます。

(主任看護師 植木 葉子 及川 道代 近藤 千亜紀)



いわて東北メディカル・メガバンク機構

沿岸被災地域の医療復興支援の一環として平成24年に設立された当機構は、機構長、副機構長3名、教員17名、その他常勤職員31名、非常勤職員77名の129名で構成されています。

当機構では、沿岸の県立病院への医師派遣、被災地域を中心とした健康調査のほか、健康情報と生体試料を集積したバイオバンクを構築し、震災による健康への影響等を解析することで、次世代医療(個別化予防・個別化医療)の実現を目指しています。

お陰様で健康調査の参加者が平成27年12月に3万人を超えました。また、解析研究では、国内で行われているコホート研究の試料相互利用を可能にする画期的な手法の開発等、複数の論文が国際科学雑誌に掲載されました。

現在は、追跡調査や二次調査に向けた準備等、地域住民の皆さまの健康づくりに対象自治体と取り組むと共に、参加者の皆さまからお預かりした試料の解析を進

め、次世代医療を実現すべく、日夜研究に励んでおります。

引き続き、学内外の皆様のご更なるお力添えをお願い申し上げます。

(広報企画部門 遠藤 龍人)



二戸市特定健診会場 | Cブースの様子

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 米澤 裕司
影山 雄太 山尾 寿子
松政 正俊 菊池 初子
齋野 朝幸 佐々木さき子
成田 欣弥 佐々木忠司
佐藤 仁 熊谷 佑子
藤本 康之 畠山 正充
白石 博久 菅原 侑子
藤澤 美穂 武藤千恵子
高橋 慶

編集後記

岩手山の雪解けも進み、新緑が待ち遠しい季節になりました。

油井亀美也宇宙飛行士も、宇宙から望む本県の山々の美しさをミッション報告会～亀の恩返し～で語られています。自然はその美しさで私たちに魅了する一方、時にその大きな力で私たちに襲いかかります。この度の熊本地震でも自然の驚異をあらためて感じさせられました。

被災された皆様にお見舞いを申し上げるとともに、日常が少しでも早く取り戻せるよう、お祈りしております。

(編集委員 菅原 侑子)

岩手医科大学報 第475号

発行年月日 平成28年4月30日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111 (内線7023)

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



感音難聴患者に対する両側人工内耳装用

人工内耳は、現在世界で最も普及している人工臓器の1つで、未発達または損傷を受けた内耳に代わる役割を果たす医療機器です。音を増幅する補聴器とは異なり、内耳（蝸牛）の損傷を受けた部分に代わって、脳に音の信号を送る働きをします。一般に両耳に90dB以上の高度難聴があり、補聴器装用で十分な装用効果が得られない患者さんが対象となります。

出生数1000に対して1人の割合で生まれるといわれる先天性難聴の小児(手術適応は1歳以上)、あるいは後天性の高度難聴の成人のいずれにも適応となります。

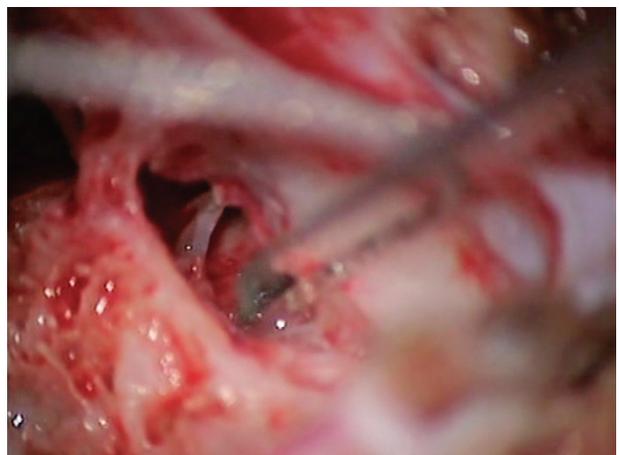
世界では1977年にオーストリアで初めて人工内耳手術が行われました。わが国では1985年が最初で、30年が経過した現在では人工内耳装用者は1万人以上となっています。当科では1994年から人工内耳手術を行っており、現在までに手術件数は延べ160件近くになっています。

当初は片耳のみの装用でしたが、2014年からは希望する患者さんには両側人工内耳手術を行っており、現在ではその症例数は22例にのぼっています。

人工内耳の両耳装用のメリットについてはこれまで多くの臨床研究で報告されており、

特に言語獲得にとって重要な時期に両耳装用することが、音源の特定など、聞く能力の発達を促進させることが明らかとなっています。実際に両耳装用している患者さん、あるいは保護者の方々からは、音の方向感や雑音下での言葉の聞き取りが片耳装用の時よりよくなった、という声をよく聞きます。

人工内耳手術の入院期間は約1週間、全身麻酔での手術で、手術時間はおよそ2時間ほどです。両耳いっぺんに手術するわけではなく、まず片耳に手術を行い、希望される患者さんには4～6か月後以降に対側の手術を行います。退院後は外来通院、リハビリが必要です。



蝸牛内に電極を挿入しているところ